

次世代のがんプロフェッショナル養成プラン 取組の概要と推進委員会からの主なコメント

代 表 校 名 (連 携 大 学 名)	筑波大学 (千葉大学、群馬大学、日本医科大学、東京慈恵会医科大学、 昭和大学、獨協医科大学、埼玉医科大学) 計 8 大学
事 業 名	関東次世代のがん専門医療人養成プラン
事 業 責 任 者	筑波大学医学医療系消化器外科教授 小田竜也
事 業 の 概 要	
<p>本事業では、3テーマに対してリーダー校を設置し活動を牽引する。①「支える多領域（千葉大学）」では、がん医療を直接は主対象としない領域人材へのがん知識教育と、がん医療者への周辺領域の知識教育を行い、包括的にがん医療を豊かにする人材養成に取り組む。②「データ科学（筑波大学）」では、診療ビッグデータに後方視的 AI 解析を行いがん予防に繋げるデジタル疫学に加え、デジタルデータを扱った未来の遠隔医療の実現に資する人材を養成する。③「治療イノベーション（群馬大学）」では新規治療薬や、粒子線治療の開発を推進する人材を養成する。教育基盤として、過去15年に渡る全国がんプロ e-learning をさらに発展させ、6科目のコンテンツを全国の拠点と連携して作成する。既にある2000以上のコンテンツと合わせ、ジュークボックス機能を活用し、各大学独自の教材とする。21世紀型の教育の共同実施の実例として、本拠点はその活動の中心的役割を担う。</p>	
推進委員会からの主なコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等	
<p>○それぞれの目的に対するリーダー校①（がん治療を）支える多領域(千葉大学)、②がんデータ科学(筑波大学)、③がん治療イノベーション(群馬大学)を設定することにより、発展的な教育・臨床・研究の展開が期待できる。さらに各修了者の数をアウトプットにしているため、達成目標がわかりやすく、アウトカムも同様に専門医取得であり、それぞれの専門性を活かしたがん医療への貢献や均てん化への寄与が期待される。</p> <p>○教育基盤として、全国がんプロ e-learning を有し、それらをさらにがんプロ E クラウドとして発展させることで 21 世紀型の教育の共同実施の展開及び幅広い教育・研究リソースの発展が期待できる。さらに、同一の教育プログラム下で実施されるため、自然に連携が推進され、均てん化した医療や研究の普及が期待できる。</p> <p>○多くの多職種育成が期待できる。</p> <p>○データ科学推進を一つの柱として予防推進の人材養成を行う視点がユニークであり、意欲的なプログラム構成である。</p> <p>○実績もあり、各診療科・職種横断的な実施体制であるため妥当な運営体制と考えられ、学内の運営体制はコーディネーターや実務マネージャー設置により、教育と連携を推進するための体制づくりが容易になることが期待される。</p> <p>○各大学の中で、分野ごとにユニットを形成し、ユニット内及びユニット間で情報共有を行い連携を図ることにより、共通課題に対する有機的な連携が期待できる。</p> <p>○補助期間終了後の取組の継続に対する具体的な構想は示されており、自立的かつ継続的に運用していくことで、さらに人材育成の継続が期待できる。人材養成モデル、e-learning は他地域への普及効果も期待できる。</p> <p>●各大学の博士課程に3つの視点からの e-learning が加わる形での教育プログラムになっているが、e-learning の内容、3校で作成する場合の質的な保証などについて明確には読み取れないところがある。</p>	

- 医学物理士、心理職の積極的育成に若干欠けるようにも思えるため、今後の改善が期待される。
- 評価指標には専門職への育成以外にも、患者や地域などの社会的な目線からの具体的な立案も期待したい。
- 千葉大学で計上されている ChemiDocTouch システムがどのように活用されるか不明確。
- 事業の進行状況や今後の課題、改善点を検出するためには、評価体制が成果の発表のみならず、シンポジウムの構成の熟考が必要である。
- 年度進行に伴い、目標に向けた事業展開の進度がわかるような計画の記載が望まれる。
- 教育プログラムはそのほとんどが多職種対象となっているが、レベルの設定、あるいは職種特異的な教育などが必要な場合の到達目標、評価体制についても検討が必要ではないか。
- 創薬研究などの人材を担うプログラム、他の分野に比べ少ないため、検討することが望まれる。